

透析患者における TBI(足趾/上腕血圧比)の有用性(第 3 報)

第 67 回 大阪透析研究会

丸山禎之・逸見加代・秋山早苗・戸田和美・桜井美紀・林 彩子・我那覇志真子・松本愛・岡本真由美・和田 茂・佐々木敏作(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】維持透析患者における TBI 測定の有用性についての検討

【方法】当院透析患者 66 名に対し、コーリン社製 form を用いて ABI・TBI・PWV を 3 年間経年的に測定した。またイベント発症率(全死亡、重症虚血性下肢病変)の調査を行なった。また同時に血中アディポネクチン(adp)の測定を行ない比較検討した。

【結果】3 年間の経過では baPWV、ABI は変化が認められないのに対し、TBI は有意に低下していた($p < 0.01$)。また DM 群では非 DM 群に比して TBI の低下率は大きかった。ABI 低下群(< 0.9)、正常群ともイベント発症率に差が見られなかったのに対し、TBI 低下群(< 0.6)は正常群に比べ、イベント発症が高率であった。adp は BMI と有意な逆相関($r = -0.56, p < 0.00001$)を認めたが PWV、ABI、TBI との相関は認められなかった。adp は経年的に低下傾向が見られた。

【結論】TBI は ABI より死亡、重症下肢病変に対する、有力な予測因子となることが示唆された。